

被災者への支援

3. 被災者への支援 坂戸キャンパスから

自然災害が少ないと言われる埼玉県ですが、令和元年の台風19号では坂戸キャンパス周辺の地域に大きな被害をもたらした。老人福祉施設やショッピングモールが浸水しました。ここでは、大学がおこなった被災者への支援を紹介いたします。

避難所における炊き出しボランティアを経験して

菅原久美子 学部平成18年卒業

女子栄養大学栄養学部実践栄養学専攻卒業後、給食委託会社に就職、病院の管理栄養士を務めたのち、平成24年より香川栄養学園附帯事業部、松柏軒坂戸カフェテリアの管理栄養士として学生食堂の運営全般に携わり、現在に至る

令和元年9月に、台風19号が関東へ上陸、各地に記録的な大雨と強風をもたらした。女子栄養大学がある坂戸市でも、一部の地域で甚大な被害を受け、避難所が設置されました。長引く避難生活のなか、炊き出しボランティアのお話をいただき、少しでも力になればと、カフェテリア職員2名で、参加させていただくことになりました。

避難所において調理をすることが難しかったので、カフェテリアの厨房で作ったものを、避難所まで運びました。食器も使い捨て容器を用意し、温かく提供できるように、保温機器も持参しました。メニューは、食べやすく、提供しやすいもの…と考

え、中華丼とリクエストのかきたまスープにしました。

避難所へ行くことは、私自身初めての経験でした。避難所へ行くこと、体育館の中がダンボールで仕切られ、家族ごとのスペースになっており、看護師の方が一人ひとり、体調チェックに伺っていました。非常食や日用品など、必要なものは各自で取るようになっていました。避難所が開設されて数日経ち、慣れてきて穏やかに過ごしているように見えました。きつとご自宅のことや体調、今後のこと、いろんな心配を抱えていらしたのだと思います。そんな中でも、配膳時間になると、みなさん受け取りに来た際、「いただき

ます」「ありがとうございます」と声をかけてくださいました。片付けに来た際も、「ごちそうさま、おいしかったよ」「あたたかいものが食べられてよかったです」とのお言葉もいただきました。食事を通じて少しでも元気になってもらいたい!と思って参加した炊き出しでしたが、みなさんの優しい言葉と笑顔に、私も元気をいただきました。

この台風19号の災害をきっかけに、大学においても防災への意識がさらに高まり、炊き出し用に、屋外用ガス台、炊飯器、ガスボンベを購入していただきました。坂戸校舎では、自衛消防隊組織の中で各担当班に分かれており、食糧班はカフェテリア職員や給食、調理系の教職員で構成されております。その食糧班を中心に、その年の12月、炊き出しのデモンストラーションを兼ねて、豚汁を40人分作りました。ガス台、炊飯器の設置と使い方、お湯が沸くスピードなど、実際に目で見て確認することができました。

今後の課題としては、災害の状況をいくつか想定し、その規模にあわせた行動フローチャートや献立の作成、備蓄品の購入など計画的に進め、

いつ何時、どこでも起こりうる災害に、備えていきたいと思えます。



中華丼を提供しました



避難所での炊き出し（右端が筆者）